

ISPOR 日本部会ニュースレターNo.3

事務局

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社内

メール：ispor.japan@gmail.com

ホームページ：www.ispor-jp.org

本号の目次

- I. ISPOR 日本部会特別セミナーのお知らせ
- II. 2012 年度活動計画
- III. 第8回学術集会報告
- IV. ISPOR 本部からのお知らせ
- V. 関連学会・研究会のお知らせ

I. ISPOR 日本部会特別セミナーのお知らせ

医療経済評価の政策応用への議論が活発化しています。その一方で、経済評価結果を制度に反映させるためには、経済評価の標準的な方法を設定する必要があります。実際に医療経済評価を制度に用いている諸外国では、いずれにおいても標準的な経済評価の手法を提示するガイドラインが作成されています。

これまで、わが国においても経済評価ガイドラインの作成が試みられていますが、平成23年度厚生労働科学研究「医療経済評価の政策応用とガイドライン開発に関する予備的研究」(主任研究者 福田敬 国立保健医療科学院上席主任研究官・ISPOR 日本部会次期会長)において、ガイドライン作成のための論点が整理されました。

そこで、ISPOR 日本部会では、本研究に参加された研究班メンバーにご参加頂き、整理された論点、課題について報告するとともに、今後の方向性について議論いたします。

日 時： 2012 年 7 月 24 日(火) 13:00～15:00

場 所： 星陵会館ホール 東京都千代田区永田町 2-16-2

(地下鉄有楽町線・半蔵門線永田町駅下車6番出口 徒歩3分)

参加費： ISPOR 日本部会会員 無料、非会員 5,000 円

【お申し込み方法】

参加ご希望の方は ISPOR 日本部会ホームページ (<http://ispor-jp.org/>) からお申し込み下さい。

【プログラム】

- 13:00 ISPOR 日本部会会長挨拶 (坂巻 弘之)
- 13:05 厚生労働科学研究「医療経済評価の政策応用とガイドライン開発に関する予備的研究」
について (福田 敬)
- 13:45 指定発言(演者調整中)
- 14:15 厚労省からのコメント(演者調整中)
- 14:25 質疑応答
- 15:00 閉会

II. ISPOR 日本部会 2012 年度活動計画

平成 24 年 3 月 25 日に開催されました理事会および総会において、2012 年度 (平成 24 年度) 活動計画が承認されました。本年度は、9 月頃と平成 25 年 3 月頃の 2 回、学術集会を開催するとともに、薬剤師や製薬企業、医療機器企業向けのセミナーも開催する予定としています。また、ニュースレターを定期的に発刊し、会員向けのサービスも充実していく予定です。

活動計画、予算計画、ならびにそれらを承認した理事会議事録は、ISPOR 日本部会ホームページで閲覧できます。

Ⅲ. 第8回学術集会報告

医療経済評価を医療政策へ応用しようという動きが日本でも強まってきています。「社会保障・税一体改革成案」の中にも「保険償還価格の設定における医療経済学的な観点を踏まえたイノベーションの評価等の更なる検討」が盛り込まれ、「費用対効果を勘案した医療技術等の評価に関する研究・調査」が来年度の概算要求にも含まれています。

医療経済評価は、保険償還や薬価などその「使い方」に注目が集まりがちです。しかし今回の学術集会では医療政策全体の中でどのように医療経済評価を位置づけて考えるか、医療の望ましい姿と医療経済評価の関わりといった、幅広い視野から議論することとして、以下の要領で第8回の学術集会を開催しました。

講演資料を [ISPOR 日本部会ホームページ](#) で閲覧できます。(ただし、会員限定・要パスワード(パスワードは、会員宛メールでお知らせしています)。)



テーマ： 医療経済評価の政策への応用を考える～日本の医療政策における医療経済評価の役割～

日時： 2012年3月25日(日) 13:15～17:30

場所： 星陵会館ホール 東京都千代田区永田町 2-16-2

後援： 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター

【プログラム】

第1部「日本の医療政策における医療経済評価の役割」

座長：下妻晃二郎(立命館大学生命科学部)

1. 安達秀樹氏(京都府医師会副会長、中医協委員)
2. 印南一路氏(慶應義塾大学総合政策学部、医療経済研究機構、中医協委員)
3. 加藤益弘氏(欧州製薬団体連合会(EFPIA Japan) 副会長)
4. 香取照幸氏(厚生労働省 政策統括官(社会保障担当))

第2部「話題提供とディスカッション」

座長：坂巻弘之(名城大学薬学部)、福田敬(国立保健医療科学院)

1. 諸外国における医療経済評価の応用 池田俊也(国際医療福祉大学薬学部)
2. 諸外国における医療経済評価ガイドライン 五十嵐中(東京大学大学院薬学系研究科)
3. 医療資源配分の倫理的側面からの議論 白岩健(立命館大学生命科学部)

概要

安達秀樹氏は、日本の医療費の現状と中医協での議論をもとに、医療費が増え続ける要因として医療技術の進歩による先進医療の発達と高齢化による医療の需要の増大を指摘しました。その結果として、入院医療費と入院外医療費、材料の配分に不公正が生じている可能性もあり、今後、国民皆保険を維持するため、「保険免責制」と「医療経済評価」の導入の可能性を示しました。

印南一路氏は、医薬品や医療技術に対する保険適用の判断をする際には、「医学的必要性」と「社会的必要性」とを基準にする必要性を示し、社会的妥当性の判断軸として、「法律に照らしての適法」、「本人・家族の意思確認の存在」、「患者利益との合致」、そして「費用対効果」があることを示しました。

加藤益弘氏は、欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）副会長の立場として、諸外国の事例を紹介しながら、日本での経済評価においては慎重な議論が必要であることと、企業の議論への参加の必要性について精緻な説明をしていただきました。

香取照幸氏は、現在の薬価算定方法について言及し、新薬の薬価算定で外国平均価格調整を行っていることや、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の試行導入など、現行薬価算定方式に経済評価を導入することの困難さを指摘し、医薬品、医療機器の価格設定よりも、むしろ医療技術に対する評価が議論に値する可能性を指摘しました。



安達秀樹氏



印南一路氏



加藤益弘氏



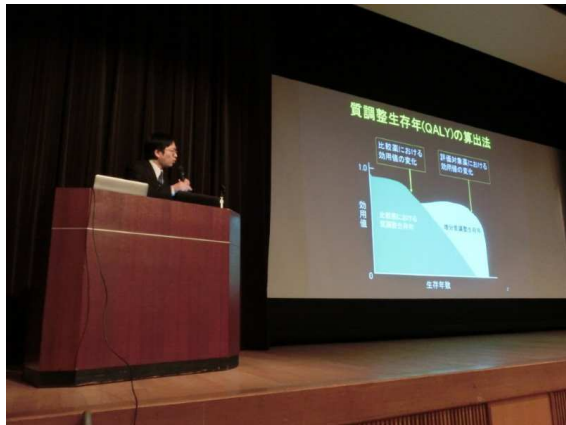
香取照幸氏



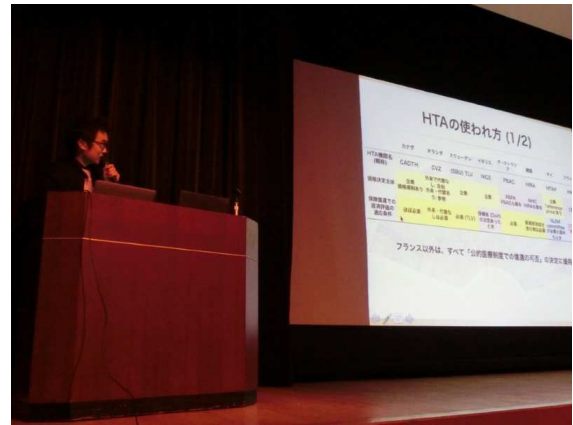
下妻晃二郎先生（第一部座長）



坂巻弘之先生、福田敬先生（第二部座長）



池田俊也先生



五十嵐中先生



白岩健先生



パネルディスカッションの様子

IV. ISPOR 本部からのお知らせ

①ワシントン大学医薬品アウトカム研究・政策プログラム

ワシントン大学医薬品アウトカム研究・政策プログラム（University of Washington Pharmaceutical Outcomes Research & Policy Program）は、医療経済およびアウトカム研究のオンライントレーニングおよび認証プログラムを開講します。このプログラムは2012年9月から開始され、現在、申込を受付中です。詳しい内容は、以下のURLを参照下さい。

<http://www.pce.uw.edu/certificates/health-economics/web-autumn-2012/>

②ISPOR アジア・パシフィック学術総会 ISPOR 5th Asia-Pacific Conference

<http://www.ispor.org/Events/Main.aspx?eventId=37>

●開催日：2012年9月2～4日

●開催地：Taipei International Convention Center

・Early Registration Deadline: 24 July 2012

・Edit/Transfer Registration Deadline: July 31, 2012

③ISPOR 北米学術総会 ISPOR 17th Annual International Meeting

<http://www.ispor.org/Events/Main.aspx?eventId=38>

●開催日：2012年6月2～6日

●開催地：Washington Hilton, Washington, DC, USA

④ISPOR ヨーロッパ学術総会 ISPOR 15th Annual European Congress

<http://www.ispor.org/Events/Main.aspx?eventId=39>

●開催日：2012年11月3～7日

●開催地：ICC Berlin, Berlin, Germany

・Abstract Submission Deadline: 26 June 2012

・Early Registration Deadline: 18 September 2012

V. 関連学会・研究会のお知らせ

財団法人パブリックヘルスリサーチセンター第 6 回 ヘルスアウトカムリサーチ支援事業
(CSP-HOR) 年会

医療のエビデンスをどう伝え、どう活かすか

問合せ先 : (財)パブリックヘルスリサーチセンターCSP-HOR 事務局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-1-7
TEL : 03-5287-2633 / FAX : 03-5287-2634
メールアドレス : info@csp.or.jp

- 開催日時 : 2012 年 7 月 7 日 (土) 12:00~18:10
- 開催場所 : 東京大学医学部教育研究棟 鉄門記念講堂
- 参加費用 : 一般 3000 円、学生 1000 円
- 患者さん及び患者さん支援団体の方 1000 円 (※当日受付にてお願いいたします)
- お申込み : <http://www.csp.or.jp/hor/> 受付 5 月 22 日 (火) ~6 月 30 日 (土)

●プログラム

第 1 部 エビデンスを理解するために

司会 : 森田 智視 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床統計学・疫学)

1. CSP-HOR の概要

下妻 晃二郎 (立命館大学 生命科学部 生命医科学科)

2. CSP-HOR の新しい取り組みー脱毛と QOLー

矢形 寛 (聖路加国際病院 乳腺外科)

3. 試験デザインとエビデンスの解釈

大橋 靖雄 (東京大学大学院 医学系研究科 公共健康医学専攻)

4. 健康評価と QOL (神経毒性と浮腫)

下妻 晃二郎 / 大住 省三 (独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 乳腺科)

5. 医療経済評価 (費用、EQ-5D)

福田 敬 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター)

第 2 部 エビデンスをどう伝え、どう活かすか

司会 福田 敬 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター)

大住 省三 (独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 乳腺科)

1. EBM を再考する-多様なエビデンスがあるときに EBM をどう考えるべきなのか

中山 健夫（京都大学大学院 医学研究科社会健康医学系専攻 健康情報分野）

2. 臨床家が重視するエビデンス

平 成人（岡山大学病院 乳腺・内分泌外科）

島田 安博（国立がん研究センター中央病院 消化管腫瘍科消化器内科）

3. 患者が重視するデザインとエビデンス

真島 喜幸（NPO 法人パンキャンジャパン）

桜井 なおみ（NPO 法人HOPE プロジェクト）

4. エビデンスを伝える手段と課題

山本 精一郎（国立がん研究センター がん対策情報センター）

橋本 明子（NPO 法人血液情報広場・つばさ、NPO 法人日本臨床研究支援ユニットがん電
話情報センター）

5. ～高額な分子標的薬を例として～演者によるディスカッション

例題掲示 臨床成績：平 成人（岡山大学病院 乳腺・内分泌外科）

例題掲示 医療経済：白岩 健（帝京大学医学部 公衆衛生学講座）

閉会のご挨拶 下妻 晃二郎（立命館大学 生命科学部 生命医科学科）

ニュースレター原稿執筆要綱

原稿は、word または txt ファイルでお送りください。図や写真がある場合は、別ファイル
でお送りください。事務局にてレイアウト編集をいたします。